

里改田遺跡

県道土居一五台山線改良工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

1998. 1

(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

里改田遺跡

県道土居一五台山線改良工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

1998. 1

(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

里改田遺跡のある南国市は、高知平野の大部分を占めており、遺跡の分布密度も高知県下では最も高いところであり、原始・古代・中世においては土佐の政治・経済・文化の中心地として栄えてきたところでもあります。

この度は、県道土居－五台山線改良工事に伴う里改田遺跡の試掘調査を実施いたしましたところ、弥生時代後期後半を中心とする集落址の存在することが明らかとなりました。里改田遺跡の周辺には南四国最大の弥生集落である田村遺跡群や銅鐸の出土地などもあります。里改田遺跡は田村遺跡の消長や高知平野の弥生時代を明らかにする上で重要な位置を占めるものと思います。

今後、予想される本調査につきましても、地元住民の方々、南国土木事務所のみなさまはじめ関係方面のご理解とご協力を頂けますようお願い申し上げる次第であります。

平成10年1月

財団法人 高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 古谷 碩志

例 言

1. 本書は、高知県文化財団埋蔵文化財センターが、平成9年度に実施した県道土居一五台山線改良工事に伴う里改田遺跡の試掘調査報告書である。
2. 里改田遺跡は、高知県南国市里改田254-1他にある。
3. 発掘調査は、平成9年12月9日から12月17日まで行なった。
4. 調査面積は、108m²である。
5. 調査体制
 - (1) 調査員 出原恵三（高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査課第3班長）
 - (2) 総務 吉岡利一（同 総務課主幹）
6. 測量については公共座標を用いた。
7. 本書の編集執筆は、出原恵三が行なった。

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過	1
第Ⅱ章 周辺の歴史地理的環境	2
第Ⅲ章 調査の方法	4
第Ⅳ章 調査結果	5
第Ⅴ章 まとめ	7

挿図目次

Fig.1 南国市位置図
Fig.2 里改田遺跡の位置と周辺の遺跡分布図
Fig.3 試掘グリッド位置と本調査の必要範囲
Fig.4 G1、2、8土層柱状図
Fig.5 G9、11竪穴住居検出状況
Fig.6 出土土器実測図

写真図版目次

PL1 調査前G1、2付近（西から） 調査前G3、4付近（西から）
PL2 調査前G5～G11付近（南から） 同上（東から）
PL3 調査前G1からG4遠景（西から） G11竪穴住居検出状況
PL4 G9竪穴住居検出状況 同上土器出土状況
PL5 G1～3・7～8完掘状況及びセクション

第Ⅰ章 調査にいたる経過

本州－四国3架橋時代を目前に控え、四国横断自動車道、高知空港、高知新港など、広域的な交通輸送体系の整備が急ピッチで進行しており、本県の諸環境は急激な変貌を遂げつつある。そしてこれと連動して県下各地では記録保存のための緊急発掘調査がラッシュを迎えている。

南国市は、高知県のほぼ中央部に位置し県都高知市に隣接するところから、その影響も最も大きく、嘗てない大きな変化を経験しつつある。里改田遺跡は、南国市の市街地と海岸部の中間の地点にあり、低丘陵上に展開する弥生時代かや中近世に及ぶ集落址である。現在、遺跡の東部を県道浜改田後免線が南北に延び、東西方向には県道土居五台山線が走り、人家の密集にているところもあるが、まだ長閑な田園風景が残っており、歴史的景観も随所に認められる。しかしながら東の田村地区では高知空港拡張工事が目前に迫っており、南の浜改田地区では18.3ヘクタールに及ぶ広域流通拠点が完成間近となっている。

これらの事業の完成によって予想される交通量の増大に対処するために、高知県南国土木事務所は、県道土居五台山線改良事業を計画し、現有道路の幅員拡張工事を実施することとなった。工事が計画通り実施されれば、遺跡に影響がでることは必至である。文化財保護部局である高知県教育委員会は、南国土木事務所と協議を行なった結果、先ず工事計画地の延長170mについて試掘調査を行うことになった。

試掘調査の実施については、高知県教育委員会文化財保護室長から（財）高知県埋蔵文化財センター所長に試掘調査の依頼があった（平成9年10月16日付け、9教文第274号）。埋蔵文化財センターは、試掘調査を承諾し、高知県と委託契約を結び（平成9年11月28日）、平成9年12月1日から試掘調査に着手した。

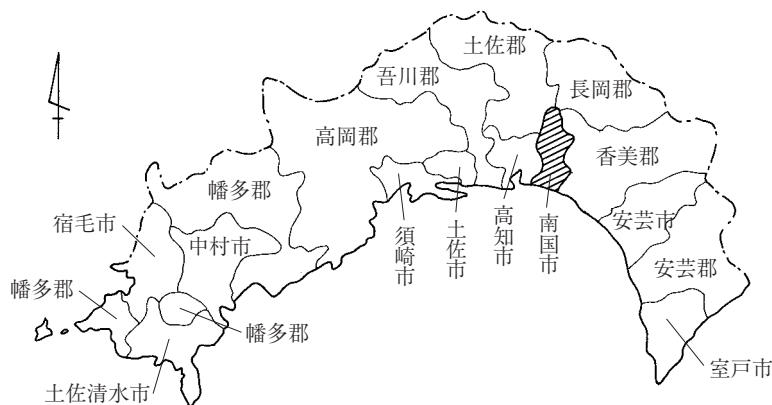


Fig.1 南国市位置図

第Ⅱ章 周辺の歴史地理的環境

里改田遺跡のある高知県南国市は、高知平野の東部にあり付近一帯は香長平野とも呼ばれ、嘗ては二期作地帯としても有名であった。土佐国府や南四国最大の弥生集落として知られる田村遺跡群などが所在し、遺跡の分布も県下で最も濃密なところである。里改田遺跡は、南国市の南部に位置し、通称西の山の南側裾部分に東西に広がりを持つ低丘陵上に立地している。標高は4～5mを測り、海岸線までの距離は約2kmを測る。

里改田遺跡周辺の地形は山塊を除けば、物部川によって形成された自然堤防、海岸部に展開する砂堤、砂堤の背後に広がる低・湿地に大きく別けることができる。自然堤防は、里改田遺跡から北に連なる西側に形成されているものと、田村遺跡群が載っている東側に形成されているものからなっており、縄文時代後期から弥生時代～古代・中世の遺跡が数多く立地している。海岸の砂堤は、現在浜改田集落が形成されているが、弥生時代前期以来の墓地在している。里改田遺跡の南や東、西の稲生地区に形成されている低・湿地には遺跡の立地が全く認められない。これらは土佐瀨の名残と考えられる。⁽¹⁾ 里改田遺跡は、瀨湖に突出する先端部に営まれた遺跡として位置付けることができよう。

周辺の遺跡で最も古く遡れるものは、田村遺跡群の中で確認された縄文時代後期中葉の土器群を挙げることができる。明瞭な遺構は検出できていないが、この頃から安定した自然環境が形成されてきたものと思われる。縄文時代晩期についてはほとんど不明である。しかし弥生時代前期初頭にいたると、田村遺跡群に松菊里型住居10棟、掘立柱建物12棟等を容した集落が出現し、やがて環濠集落が形成される。前期末には大篠遺跡(5)や岩村遺跡(15)などが出現し集落遺跡が広がりを見せるようになり、弥生社会の第一次発展期として捉えることができる。中期前半は遺跡数の縮小が見られるが、中期末から後期前半にかけては再び遺跡数が増加に転じ、田村遺跡群も最盛期を迎える。ところが後期終末から古墳時代初頭にいたると田村遺跡は急激に衰退し、それと同時に周辺部に中・小の遺跡が爆発的に出現する。高知平野に見られる当該期の遺跡の実に7割程度はこの弥生時代終末から古墳時代初頭にかけてのものである。⁽²⁾

(1) 出原恵三「弥生時代から中世に至小籠遺跡の変遷」『小籠遺跡Ⅲ』高知県埋蔵文化財センター1997年

(2) 出原恵三「弥生から古墳へー前期古墳空白地域の動向ー」『考古学研究』第40巻第2号 考古学研究会1993年

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	里改田遺跡	10	中組遺跡	19	高添遺跡
2	小籠遺跡	11	田村遺跡	20	寺の前遺跡
3	若宮の東遺跡	12	浜田遺跡	21	深淵遺跡
4	北泉遺跡	13	岩坂遺跡	22	西野遺跡
5	大篠遺跡	14	中屋敷遺跡	23	下ノ坪遺跡
6	東崎遺跡	15	岩村遺跡	24	上岡遺跡
7	ヌメル遺跡	16	石神遺跡	25	高田遺跡
8	関町田遺跡	17	表中内遺跡	26	野口遺跡
9	岡の上遺跡	18	平杭遺跡		

遺跡地名表

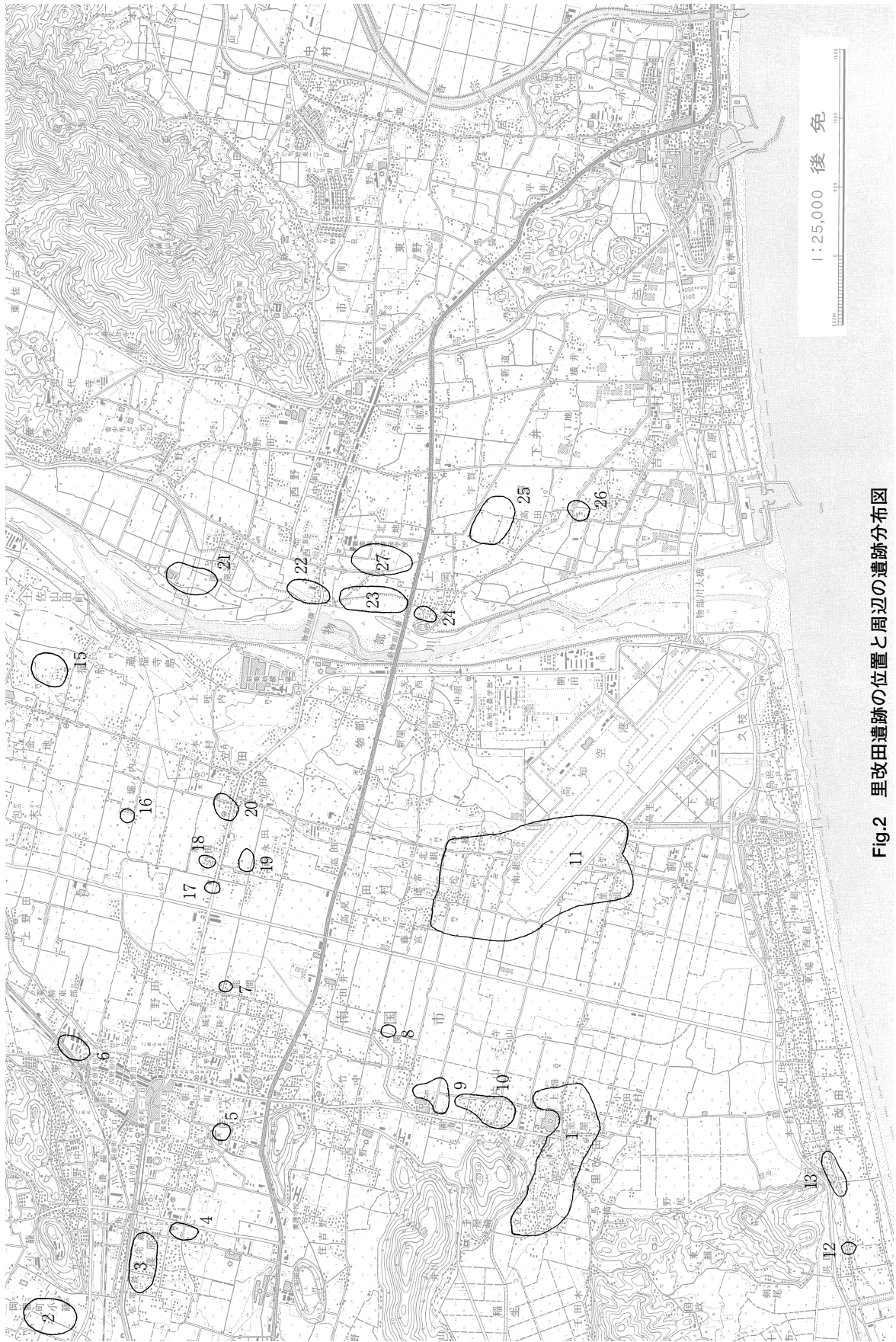


Fig.2 里改田遺跡の位置と周辺の遺跡分布図

第Ⅲ章 調査の方法

現在の県道土居五台山線を挟んで、東西に170m、約4,000m²の調査対象地の中で、民家跡地のコンクリート基礎部分を避けて、畑地や荒地に試掘グリットをG1からG12まで12個設けた。1グリットの大きさは、3m×3mを基本としたが、必要に応じて拡張した。調査は重機と手掘りで行ない土層の堆積状況や遺物・遺構の有無について観察し、セクション図や写真撮影を行なった。

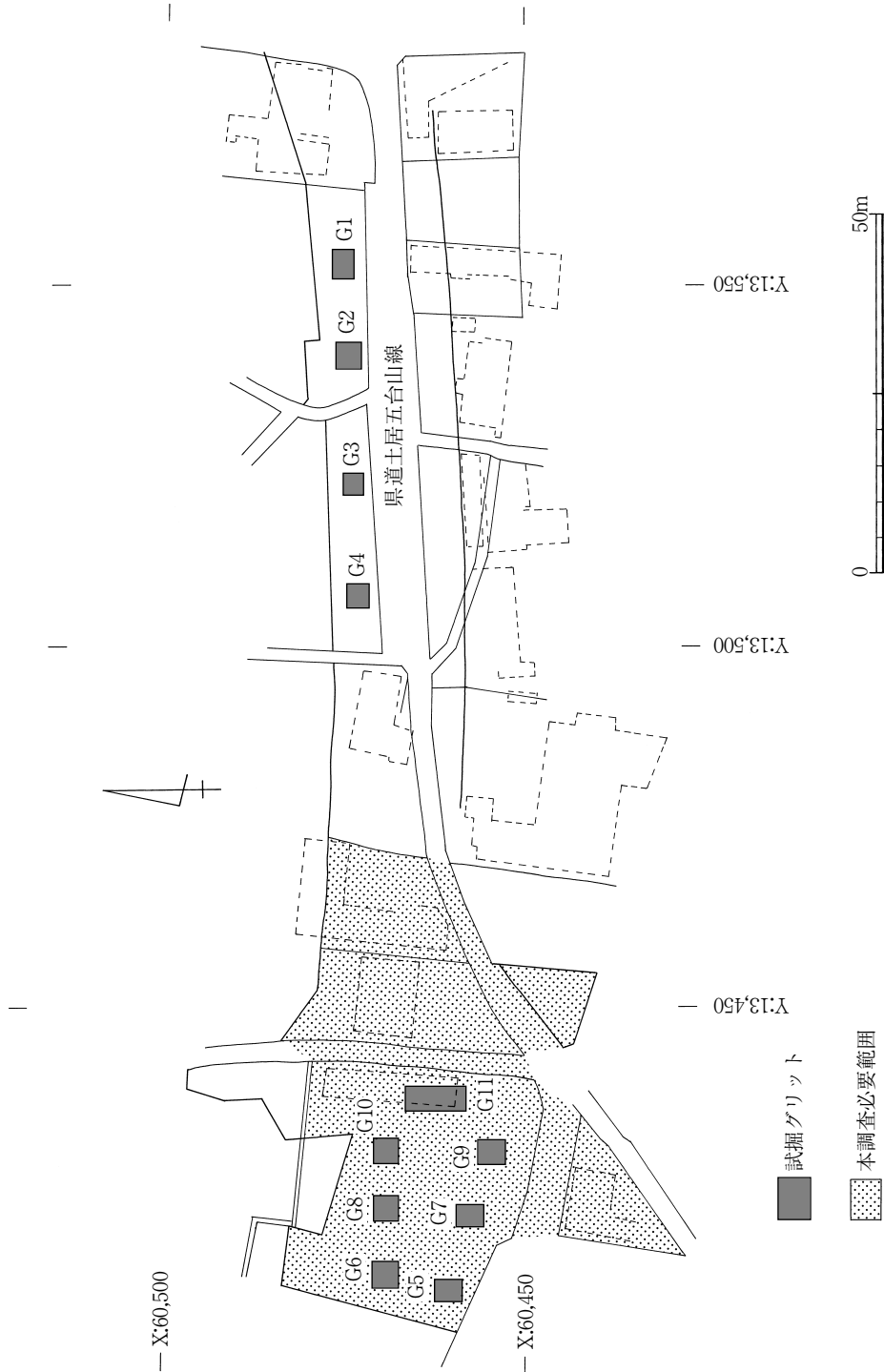


Fig.3 試掘グリット位置図及び本調査必要範囲

第Ⅳ章 調査結果

1. G1

調査区の東端に位置するグリッドである。基本層準は、Ⅰ層：現耕作土で層厚20cm。Ⅱ層：旧耕作土で層厚20cm。Ⅲ層：灰色シルト層で層厚10cm、弥生土器、中世土師器の破片が数点出土した。Ⅳ層：灰色砂層で層厚25～30cm、弥生土器、中世土師器の破片が数点出土した。Ⅴ層：灰茶色礫層で層厚60cm以上を測り、無遺物層である。遺構面を形成する基盤は認められず、Ⅲ・Ⅳ層から出土した遺物も流れ込みによるものである。

2. G2

基本層準は、Ⅰ層：現耕作土で層厚20cm。Ⅱ層：床土で層厚2～3cm。Ⅲ層：旧耕作土で層厚14cm、弥生土器、須恵器、中世土師器の細片が出土している。Ⅳ層：灰黄色粘土質シルト層で層厚26cm、遺物は認められない。Ⅴ層：灰色砂層で層厚30cm、中世土師器の細片が含まれている。Ⅵ層：灰茶色礫層で層厚40cm以上を測る。G1のⅤ層に対応する層準で、無遺物層である。G1と同様に遺構面を形成する基盤は認められず、Ⅲ層の遺物は混入、Ⅴ層から出土した遺物も流れ込みによるものである。

3. G3・4

耕作土直下が礫層となっており、50cm以上を測る。遺物は全く認められない。

4. G5～G11

調査対象地の西端にあり、約1,000m²の畑地である。現地表面の標高は4.7m前後を測りG1～G4地点に比べて50～60cm程高くなっている。3m×3m (G5～G10)、3m×6m (G11) のテストグリッドを7個設けた。

番号	出土地点	種別	品種	法 量				特徴(形態・手法等)	備考
				口径	器高	胴径	底径		
Fig.6-1	G9: 竪穴住居	弥生土器	蓋					チャートの小礫、粗粒砂を含む。黄白色。天井部外面が僅かに窪む。	
Fig.6-2	G2: Ⅲ層	弥生土器	壺					チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。口縁部が厚く作られ外面に格子目紋を施す。	
Fig.6-3	G1: Ⅲ層	土師器	小皿	8.2	1.2		5.7	精選された胎土。浅黄橙色。底部糸切り。	
Fig.6-4	G9: Ⅰ層	弥生土器	甕				9.2	チャートの小礫、粗粒砂を含む。浅黄橙色。	
Fig.6-5	G1: Ⅲ層	土師器	杯	11.6				精選された胎土。浅黄橙色。内外面ヨコナデ。	
Fig.6-6	G9: ST1	弥生土器	壺				23	チャートの小礫、粗粒砂を含む。黄白色。外面は叩き+縦刷毛+縦方向のヘラミガキ、内面は横方向を基調とする刷毛。	

遺物観察表

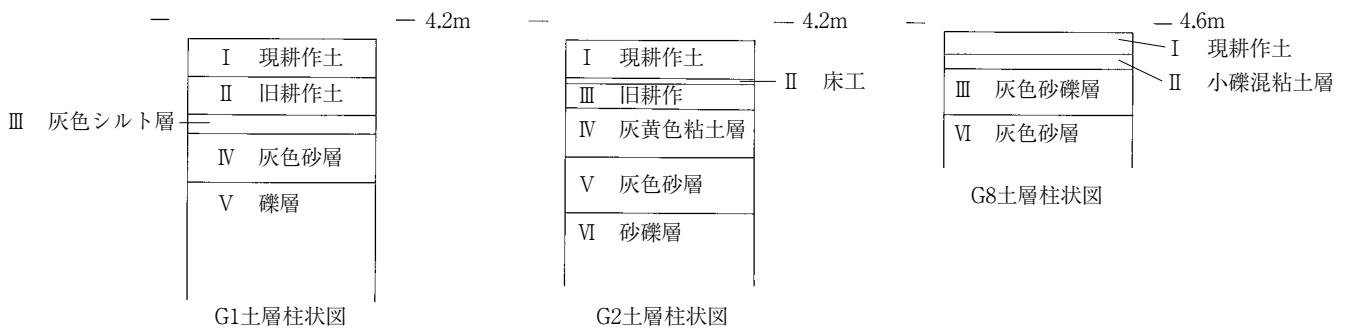


Fig.4 G1・2・8土層柱状図

X:60,450.646
Y:13,430.319

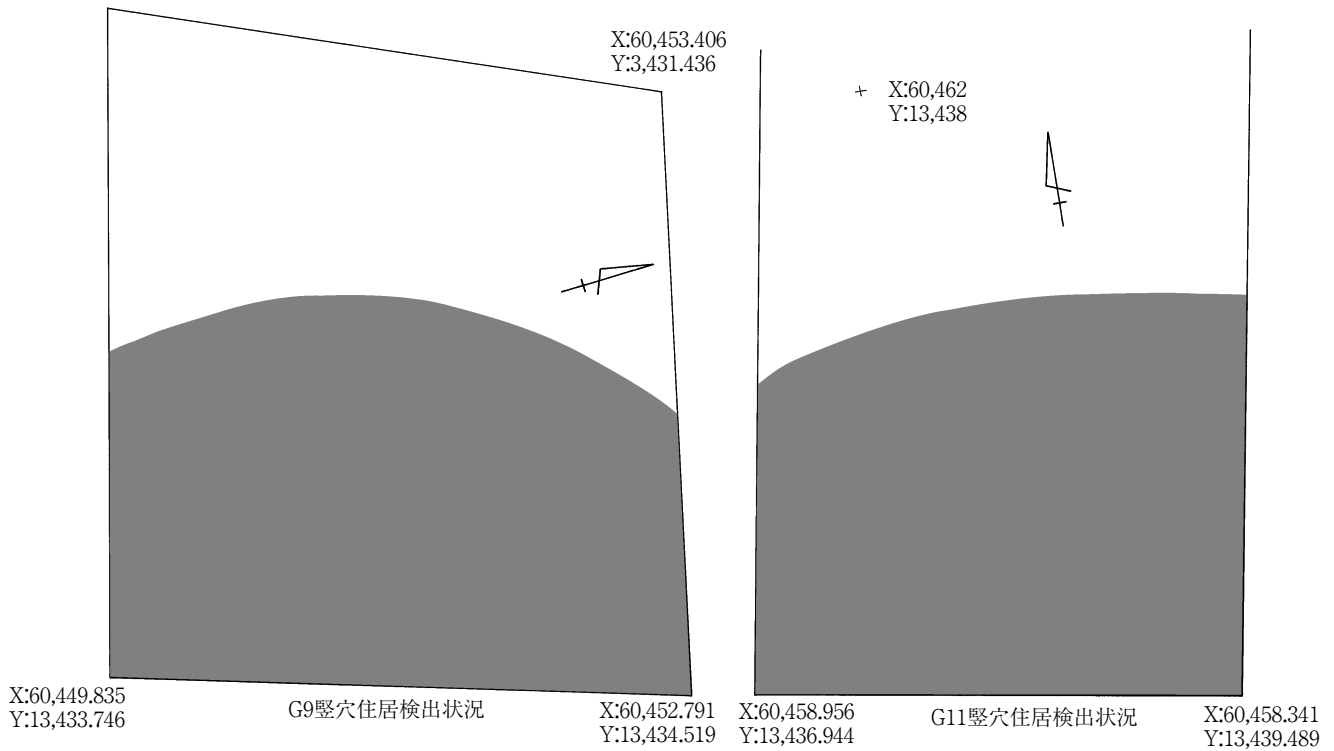


Fig.5 G9・11竪穴住居址検出状況

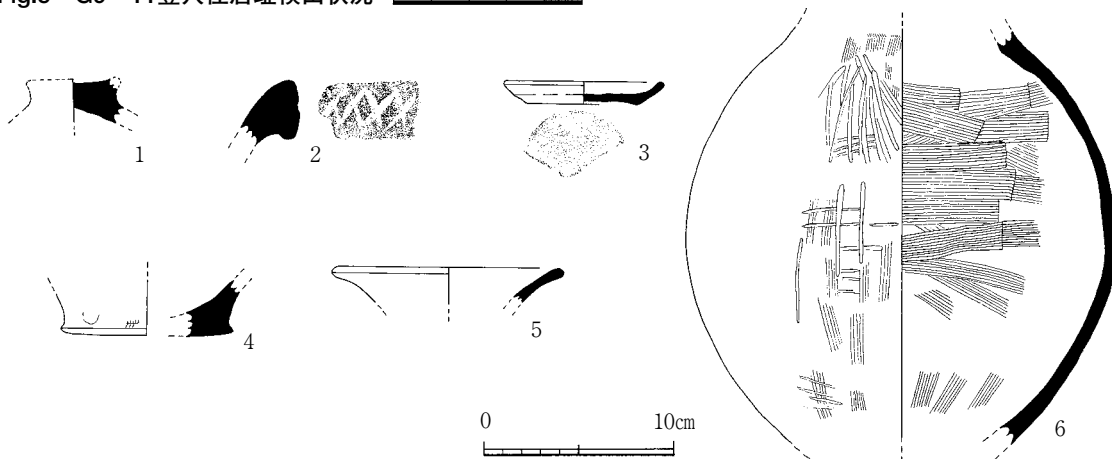


Fig.6 出土土器実測図 (1・6:9G竪穴住居址、2:G2Ⅲ層、3・5:G1Ⅲ層、4:G9Ⅰ層)

①G5～G7・G9～G11

10～20cmの耕作土を除くと各グリッドともに5cm前後の遺物包含層（Ⅱ層：小礫混ざりの黒褐色粘質土シルト層）の堆積があり、その下層が遺構検出面（Ⅲ層：礫混ざりの黄茶色粘土）となっている。

遺物包含層中よりは、弥生後期後半の土器を中心に古代・中世の土器が出土している。G9・G11からは竪穴住居址が、他のグリッドからは柱穴や小土坑状の遺構が検出された。埋土はすべて黒色粘質土シルトである。G9の竪穴住居址検出面からは、弥生後期後半の甕（Fig.6-6）が出土したために写真撮影をして取り上げた。この竪穴住居は、深さ15cm、甕は床面に接し直立した状態であった。他の遺構については、検出状況の写真撮影を行なった後埋め戻しを行なった。

②G8

G8は遺物包含層の下層に、遺構検出面のⅢ層の堆積が見られず、砂礫層が堆積している。

第V章 まとめ

調査対象地に11個のテストグリッドを設けて試掘調査を実施したが、その結果G1～G4の東部とG5～G11の西部で状況が大きく異なることが明らかとなった。微地形の違いにも対応するものである。東部は遺構検出の基盤層が全く形成されておらず、弥生後期・古代・中世の遺物を含んだ砂礫層が堆積している。里改田遺跡の東に広がっている低地に続く傾斜地で、砂礫の流れ込みが繰り返され、中世に至って今日のような地形となったものと考えられる。

西部はG8を除いてすべてのグリッドから弥生時代後期後半の竪穴住居2棟を含む遺構が確認された。この微高地上には弥生時代後期後半を中心とする集落が存在しており、地形から見て調査区の西方にも続くものと考えられる。

G4からG11の間は、建物やコンクリート基礎などのために試掘調査をすることができなかったが、G11から東にも微高地の広がりが見られる。したがってFig.3に図示した範囲約2,000m²については本調査を実施する必要がある。

先述のように、南四国における拠点集落として営み続けられてきた田村遺跡群は、弥生時代後期後半を迎えると急速に衰退し始める。それと共に、それまで集落址が認められなかった周辺部に数多くの集落が突如出現するようになる。この背景には、弥生時代から古墳時代への政治的社会的変動や自然環境の変化が考えられるが、里改田遺跡はこのような弥生時代社会の構造的変革とも言うべき集落の再編成期に出現し営まれた遺跡として捉えることができよう。前面の土佐潟に臨み水運の至便な地勢を生かした立地である。今後、本調査が実施されることにより遺跡の詳細な内容が明らかとなり、当該期の集落再編や土佐潟との関係についても踏み込んだ議論が可能になるであろう。

写真図版



調査前 G1・2付近（西から）



調査前 G3・4付近（西から）

PL.2



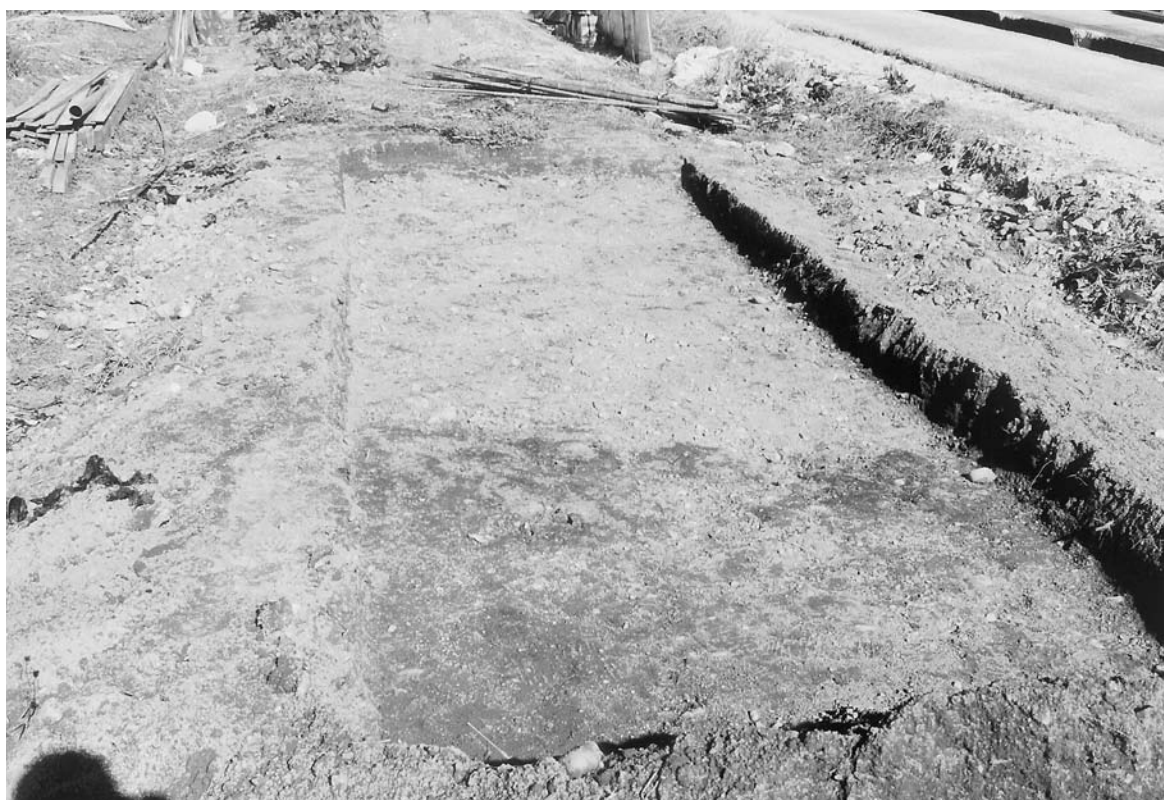
調査前 G5~G11付近 (南から)



同上 (東から)

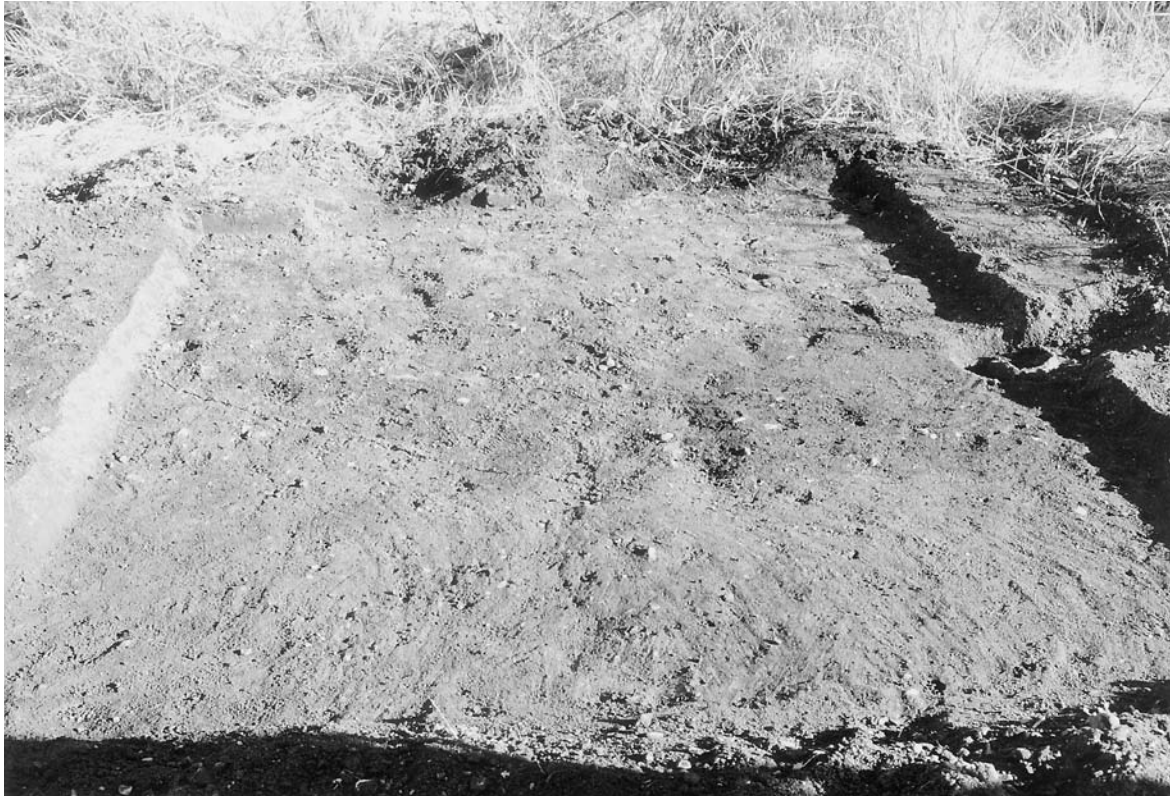


調査前 G1~4遠景（西から）



G11 堅穴住居検出状況

PL.4



G9 竪穴住居検出状況



同上 弥生土器出土状況



G1 完掘状況



G1 セクション



G2 完掘状況



G2 セクション



G3 完掘状況



G6 完掘状況



G7 完掘状況



G8 完掘状況

報告書抄録

ふりがな		さとかいだ						
書名		里改田遺跡試掘調査報告書						
副書名								
巻次		1						
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名		出原恵三						
編集機関		高知県文化財団 埋蔵文化財センター						
所在地		高知県南国市篠原南泉1437-1						
発行年月日		1998年1月30日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 / 〃	東経 。 / 〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さとかいだ 里改田 遺跡	南国市 里改田	39204	040267	33° 32′ 30″	133° 39′ 30″	平成9年 12月9日 ～ 12月17日	108m ²	緊急調査
所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
里改田遺跡		集落	弥生後期	竪穴住居	弥生土器			

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第34集

里 改 田 遺 跡

県道土居一五台山線改良工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

1998年1月

編集 (財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター

発行 高知県南国市篠原南泉1437-1

Tel. 0888-64-0671

印刷 共和印刷株式会社